

「第14回 鴨叡会・生命分子化学科セミナー」

◆講師◆ **Prof. W. Crawford Elliott**
(Department of Geoscience, Georgia State University, USA)

◆演題◆ **Long Term Selective Retention of Natural Cs by Coastal Plain Soils, Savannah River Site, South Carolina.**
(自然風化に伴う土壤Csの局在化
-サバンナリバーサイト核施設の土壤を事例として-)

◆日時◆ 平成25年8月5日(月)午前10時半から(1時間程度)
(August 5, 2013-10:30 am start)

◆場所◆ 図書館 視聴覚室 (3階)

講演内容:

Elliott博士の研究グループは、現在、環境中に放出された放射性セシウムが行き着く先として、自然風化によりバーミキュライト化した雲母に注目し精力的に研究成果を発表されています。その中で、K-Ar年代測定法を用いて土壤中の雲母の生成経路について明らかにするとともに、土壤中にもともと存在している安定なセシウムが、選択的吸着メカニズムのはたらきにより雲母に局在化している可能性について指摘されています。

当日のご講演では、これらの研究内容について、方法の原理を踏まえてわかりやすくご紹介いただきます(発表は英語)。

参考文献

- 1) Wampler et al. (2012) Long-term selective retention of natural caesium and rubidium by highly weathered coastal plain soils. *Environmental Science & Technology*, v. 46, 3837-3843.
- 2) Naumann et al. (2012) K-Ar age Constraints on the origin of micaceous clays in the Savannah River Site Soils, South Carolina. *Clays and Clay Minerals*. v. 60 496-506.
- 3) 中尾 淳 2012. セシウムの土壤吸着と固定. 学術の動向10月号【特集1】放射線防除の土壤科学-森・田・畑から家庭菜園まで-, vol. 17, pp40-45, 日本学術会議.

多数の皆様のご来聴を歓迎いたします。

◆連絡先◆ 中尾 淳・矢内 純太(土壤化学研究室)
Atsushi NAKAO (Lab. Soil Chemistry)
E-mail: na_4_ka_triplochiton@kpu.ac.jp Phone: 075-703-5652
Room1106(1号館1階), Kyoto Prefectural University